

912.3

7



大防

小銀治

大防馬槽子厚板襖衣大口腰帶
脇風掛厚板長絹大口腰帶レリ角



押毛ハ系院小仕人等御佛乃成候と我
事也海色御門と新寄物乃具要う由
して三束乃ちから宗迎小口銀をうたを
らる金と乃金名品と成りくは預ふば中
を家とにゆけやと好いふ宗と我
事と候ふとさうまのいひありしゆとて

もちも吹雪きわてふふやき地ふ
 ちりくして雪火のゆつてかきこもあま
 八枚万さうえひはるはちらも地寒う
 てきてりる雪は雨にさまるて人
 家もゆきをまもも雪あまのゆき
 やとゆきうつてさうさうのゆき
 いそそしゆはももるへきつてある家乃

[illegible]

Handwritten text in a cursive script, likely Chinese, arranged in horizontal lines. The text is written on a light-colored, aged paper. The characters are dark and fluid, with some variations in stroke thickness. The lines are closely spaced, and the overall appearance is that of a continuous flow of writing.

Handwritten text in a cursive script, likely Chinese, arranged in horizontal lines. The text is written on a light-colored, aged paper. The characters are dark and fluid, with some variations in stroke thickness. The lines are closely spaced, and the overall appearance is that of a continuous flow of writing.

雲ともしうきあけや美天下一のく
 うめいのゆつるきめて田舎をたぎめた
 まへとあくるうきもは時なまやす
 かづゆの氏乃神あまの神侍らまつ
 ひれを勅使おしきるきをきりありとひ
 すそ又ひる雲うきなり又ひる雲おと
 ひたりて東のあり乃羅おそくへける

わきみ

錦一本

脇僧人

角惟子小衣

腰帯殊紋扇

室や園てもあふくもあらしなる

秘人 何 もと伝書て見の傍そいれ我

いまと東園をみるもい程おびくひひき

陸奥れそてまたけ脚せりやとあひ水

山々あそびとけりやあのかくも

てとるそそたき乃そとあきなる秘人

糸とぎにあらまゝ八洞川流さくつるを
川口からく^{おき}まゝや流れては妹背の中
の河とまゝく^{おき}まゝの心はくもやま
ふのおく隆奥はふの郡の名あり細
布はそこそこの綿糸のななるを
おろし^{おき}も^{おき}なりなりはそ^{おき}なり
となりなる^{おき}なる布^{おき}なりはま^{おき}なり

りくそが性乃持ち方なるは織
布とるなり又おろしは持ち方なり
はうくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくく
賣物とていそ^{おき}も^{おき}細布とてなり
せまき布也^{おき}も^{おき}綿糸とてなり
おき^{おき}も^{おき}綿糸とてなり

物ありも先されし人 ^{たき} 実と細布

富市の名物あま由水及ていさうて何れ
 の名物にていせん ^運 うそこれ作や
 名物あま錦本細布のきりひもあて
 そまていばもあまゆもあまふら
 一とさきもあまゆらふれらくお通あま
 半とさきもあまゆらふれらくお通あま

いせと松人の名物あまゆのきりひもあて
 あま細布あまゆらふれらくお通あま
 西の五名物あまゆらふれらくお通あま
 あまゆらふれらくお通あま

名物あまゆらふれらくお通あま
 あまゆらふれらくお通あま
 あまゆらふれらくお通あま

錦

の目数つゝるをもちて、
 ひら陰お海塚をいひ、
 おうそくひきて神
 本へたるも若の古墳かまはるを神
 本の救を海塚ふきあぐ、
 もと海塚
 尸作わさ りくハを海塚をもて、
 ちん入の物
 陰おまろく敷て、
 あふく
 そりく敷やさん、
 ひん入せぬとて

文
 夫婦の老い先ふたら波訪人をもをもあひ
 四十一
 つぐみの細衣をききして後隊ハシク
 波訪人あまう波訪のそんて人の面影
 あまうあまうあまうあまうあまうあまう
 上
 夫よりあまうあまうあまうあまうあまう
 上
 ややあまうあまうあまうあまうあまう
 三
 松ひし時あまうあまうあまうあまうあまう
 上

いふにあらはしき御本^上の ちのちのちの
まゝ又まゝふいふせの値過ふ今え
あれと^上まゝあつてはいふの陰より
君の侍様のまゝあるお歌も出ら
ゆんせよまゝいふなうくあつてはそふ入ね
まゝいふと利し着たを替へるなり
わづかし^上なまゝあつてはしるをた
まゝあつてはしるをた

そつと肉の灯の影あつて
ある人あつてはしるをた
まゝあつてはしるをた
つと^上わづかしなまゝあつてはしるをた
まゝあつてはしるをた
まゝあつてはしるをた
まゝあつてはしるをた

たゞひなまゝに様家
なる小彩と書を影をもてし
うひで織細布や漆木のあはれ
るもてもいねのふもとつき
かきほくふらてみなるつぎ
をえんと懺悔乃後中ふれ
あり

[illegible]

別を抄く其後ハ雪や煙ハまゝのふゆ
もゆるるゆくと云ふ傳ハ奥へてまゝを
あへく見送りてり方をもなりにはり
く 実なるも定めなまの
習ひそとひあへてまゝのあふふ
一 悲事の別を乃後乃是道のまゝ
まゝのまゝひれまゝのまゝせん

いふめけ肉ハ奥肉ゆふ 惟めてまゝのま

是ハ徳圓つ其の傳ゆくまゝの徳定ゆふ

初ハ其の傳ゆくまゝの徳定ゆふ

云傳ゆくまゝの徳定ゆふ

移てそまゝの徳定ゆふ

やんまゆ傳ゆくまゝの徳定ゆふ

うまゆ傳ゆくまゝの徳定ゆふ

七
年をくらへばはらなるを極か
入るや実のふれはるゝを極のゝまを子
もといふふの事お啼てをまがの香
のやまゝの屋何しふらゝゝん我子れ
いとふゝいふとくゝを香歎と西ふらゝと
ふ世事の髪をふれなゝゝあゝおけゝや
いふんとまされと とうきやうれ雲の魚

たぐうかあやあゝくゝ今までんゝ始わ
去乃もろなやゝのくに本ゝもかゝそ
津の國をわ田れま松を筆面の海は
浪とる神ゝゝすゝやそとれれおとん
ふもま義まそ海てけりゝ海や松海を
をゝ海のいゝを内ゆゝ我ゝそとの海を
島移ゝゝゝなゝゝゝかゝ事そ海を

世に事少くしてすくなくあつたり
日一にゆふ零落してなるといふは
とくも後世をいふは農工商のあふ
たせしむ 日一に又八雲書畫を
あむむとせむ 日一にためてを
てに殺生をいふなり 日一に遅くを
うむに不修うて終に時をうてかへ梅

の夜なり 日一にあられども深火あり
あて睡る事なり 日一に九夜のたも
をわきま 日一に玄々のあつたを
麻をぬく 日一に麻をぬく事なり
月のあつたをぬく事なり 日一に
あつたをぬく事なり 日一に
あつたをぬく事なり 日一に
あつたをぬく事なり 日一に

海よりあつて雲すくむちの塩電を
うへに結ひたまふなるをわきをり
梅しはよ柳馬頭をさうこのをく
おあうりて海救世の^{割上}中に雲を
はるの^{一日}あな海神波振れしを
松お花をもて文浪乃海葉をもて
よへ^{平砂}うるをを産く海唇のさ

なや親はかきさすまふを呼まえ
子へ^{目上}もあつて血の海をくゆ
おこも^親親はあつて血の海をくゆ
せぬもつとさう葉をさすまふを
か^うたうらなもあつてかきさすま
葉もあつてさう葉をさすまふを
目も^知りさうらなもあつてかきさす

[illegible]

日名に都いりや馬場の川と夜もなり
 我ハ雉子とそ成りあるの道かた
 弱場はるはさふや色れそり地を
 流大鶴りり素らもてあふるを
 出かこをさじ陣あき所のるひを
 舐けてそりやい僧たもてあふる
 とふもさへハ失ふなり

[Faint, illegible text, likely bleed-through from the reverse side]

里天第

項羽 脇入 放警 甘スウ 袴ッ刀 屏

あゝあゝもーとてあゝもーとて 宿のあゝ

あゝあゝもーとてあゝもーとて 宿のあゝ

あゝあゝもーとてあゝもーとて 宿のあゝ

あゝあゝもーとてあゝもーとて 宿のあゝ

あゝあゝもーとてあゝもーとて 宿のあゝ

あゝあゝもーとてあゝもーとて 宿のあゝ

くは理はつらぬうめさきく
私おはきとては 中くつ事 紫
とふれと葉列はるものけおまもて
やう葉列へとけしする 露りあては
まのく葉もに彩を霞月をやあ
せばん天の川たか波りて七夕のく
年お一穂はるやよ 秋風をよ彼のまき添り

りた海ち少水もあにけ来つる
棹まもふと列棹をけぬよ 外く
船もきくはあるりは 楓も葉の
あふとやふとも里海ひの葉列とてあま
りすのふ何とてやうあ水はそ けやあ
もやあてあふ細もてをけすま程あを
列あはひはあもあまなとつあはり

三三

角帽子水衣
腰帯肩

あふくあまな海田

僧あふくあまな海田

あふくあまな海田

あふくあまな海田

あふくあまな海田

あふくあまな海田

あふくあまな海田

あふくあまな海田

あふくあまな海田

あふくあまな海田

あふくあまな海田

あふくあまな海田

あふくあまな海田

あふくあまな海田

Handwritten musical notation on a single staff, featuring a series of vertical tick marks above the staff line. The notation is written in a cursive script, likely representing a musical score or a list of notes. The text is written on aged, slightly stained paper.

Handwritten musical notation on a single staff, featuring a series of vertical tick marks above the staff line. The notation is written in a cursive script, likely representing a musical score or a list of notes. The text is written on aged, slightly stained paper.

これらも障子乃と此は物ありのそと

もす海をふくまて少とゆえあり

此海を牛の教とて愛むとある

軍のつぎゆる蓋人お 機嫌あるにそと

口入とふう程もくさくさく

きんむとぬねをあげまぐれ入つと

そひやうと神も奥にひくゑきと

なれとてとて牛のそとあり

氣分ありとありとぬいてはつと

ゆーんとありとありとありと

うたせんとありとありとありと

十三人ありとありとありとありと

をいふとありとありとありとありと

をいふとありとありとありとありと

一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百、



四

此本者下掛リ新板改正

并衣裳付秘蜜之拍子以

章句写之全開板不也

正徳四甲午曆弥生吉日

新町通下長者町上戸所

洛陽書林

谷口七九湯門



舞臺七郎兵衛



丁

